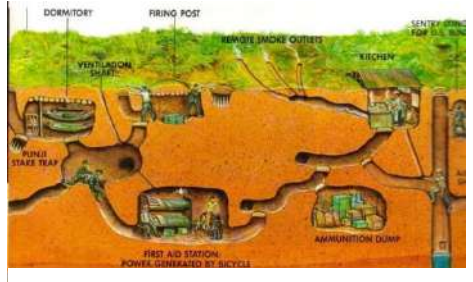


観光情報

ツアー名	クチトンネル観光
場所	ホーチミン市郊外、クチ県（ホーチミン市より車で約1時間30分）
コメント	
<p>クチトンネルは、ベトナムのホーチミン市クチ県を中心とした、全長200kmの地下トンネルネットワークです。ベトナム戦争中に、南ベトナム解放民族戦線によってゲリラ戦の根拠地として作られ、ここよりサイゴン川やカンボジアとの国境付近までトンネルが張り巡らされていました。戦時中、南ベトナム解放民族戦線の兵士たちは様々な工夫をして、狭いトンネル内に身を潜めて暮らしており、当時の生活の様子や戦争中に使われた罫の数々が、戦争史跡公園として残されています。戦争証跡博物館と合わせて訪れることをお勧めいたします。</p>	
<p>ホーチミン市を出発後、クチへ。カンボジアとの国境に近い町にクチの地下トンネルは広がっています。観光では、駐車場から、徒歩で地図の通りに巡ります。日本語のパンフレットもあります。</p>	



まずは概要をまとめたものをビデオ鑑賞で勉強。日本語あり。ベトナム戦争中にクチ県界で活躍した退役軍人の話を聞くことも可能です（要別途手配）。トンネルの模型はとても興味深いものがあります。



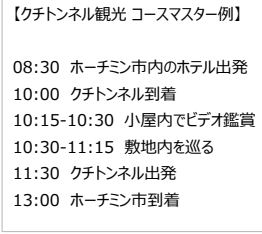
講義後実際にトンネルへ。一見何も無い雑木林ですが、トンネルの入り口があります。



ベトナムが用いた罫の数々のレクチャーを受けます。殆どが単純なもので、このしたかな罫にアメリカ軍は苦しめられ、ゆくゆくは撤退に繋がったといわれています。地下台所の再現。調理中の湯気や煙は細工をして別の場所に出します。敷地内を歩いて対し、いたるところにある通気口。これには2つの意味があります。一つは空気の確保。そしてもう一つは、米軍を欺く手段です。通気口から煙をわざと出して、米軍にここにベトナムがいると思わせます。そして、米軍が周辺の穴ぐらを探しているうちに背後から……。また、通気口のトンネル内はキッチンとなり、喚起の役目もありました。



トンネル体験。腰をかがめて誘導員の後に続きます。また、地雷に触れ動けなくなった米軍戦車が残されています。粗末な手製の武器や古風な落とし穴戦術など、独特なものがあります。政府からの圧制と、それを支援するため、突然侵入してきた外国軍に対し、平和な暮らしを取り戻すべく立ち上がった民衆のエネルギーを感じられます。



- 【クチトンネル観光 コースマスター例】
- 08:30 ホーチミン市内のホテル出発
 - 10:00 クチトンネル到着
 - 10:15-10:30 小屋内でビデオ鑑賞
 - 10:30-11:15 敷地内を巡る
 - 11:30 クチトンネル出発
 - 13:00 ホーチミン市到着



←当時の兵士たちを再現した人形。服装はすべて手製で、履物は、古タイヤから作ったゴムぞり。武器も手製だったが、アメリカ軍が廃棄したものを拾って材料に作っていたと言われています。

ベトナム戦争終結から約40年、現在ではどの町も穏やかで豊かな表情を取り戻しています。けれどよく見ると町のそこそこに、かつての戦争の傷跡を見つけることができます。クチトンネル、戦争証跡博物館、いつまでつかかわらないと言われている枯葉剤による影響...それぞれの見学を通して、戦争のすさまじさと、現在の穏やかな時代を改めて実感できるかもしれません。枯葉剤の被害は多大なものでした。ダイオキシン類の一種で毒性が強く、また遺伝すると言われてしています。2世、3世にも染色体の影響があり、奇形児がたくさん生まれる悲劇は現在も続いています。クチでも枯葉剤は巻かれ、数百人の被害がでました。しかし、アメリカ政府が枯葉剤による直接の影響と認めたのは、その内の3分の1程度で、残りの被害者はほとんど援助がなく、現在も貧困に苦しんでいます。